

ヤリスクロス モデリスタバージョン

ルーフスポイラー 取付要領書

品番:D2644-63810-**
品番:MSD42-52003/04-**

設定型式:MXPB1#/MXPJ1# 設定グレード:全車


このたびは、モデリスタ商品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
本書は、ルーフスポイラーの取付要領について記載してあります。
取り付け前に必ずお読み頂き、正しい取り付けを行なって下さい。

取り付け上の注意事項

- 取り付け前に車両に傷がついていないか点検して下さい。
- エンジンがかかっている状態では絶対に作業を行なわないで下さい。
- 車両部品の取り外しに際して、紛失や混乱がない様に部品ごとに整理して、復元する際間違えない様配慮して下さい。また、部品に傷を付けたりしない様に取り扱いに注意して作業を行なって下さい。
- 本書で指示した部品以外は、取り外さない様注意して下さい。
- 商品を取り付ける部分の汚れ、ゴミ、ホコリをウエスで拭き取って下さい。
- 車両へ商品を取り付ける際は、左右1名ずつ2名で作業を行なって下さい。
- エンドモール(両面テープ付き)・両面テープを貼り付ける部分は、必ず脱脂して下さい。脱脂作業を怠ると両面テープを接着しても剥がれる場合があります。
- 重要** ■両面テープの接着力促進剤として、必ず両面テープ用プライマーを塗って下さい。
(PACプライマー-N200を本品に添付)
プライマーの効力を発揮させる為、塗布後、常温で10分間以上放置し乾燥させて下さい。
- 重要** ■両面テープは、外気温が20°C以下になると接着力が低下しますので、両面テープ及び被接着面をドライヤー等で温めてから貼り付け作業を行なって下さい。
- 両面テープのプライマーは、溶剤が揮発するため速やかに作業を終了して下さい。
- 両面テープのプライマーは、塗装面を黄変させますので必ず塗装面をマスキングし、はみだしたプライマーは、アルコール等で完全に拭き取って下さい。
- ボディーコートが塗布されている車両は塗装用コンパウンドでボディーコートを剥離して下さい。(必ずマスキングし、なるべく細かい番手で行なう。)ボディーコートが塗布されている車両は脱脂作業を行なっても、プライマーの接着力促進効果を十分に発揮できない場合があります。ボディーコート除去後は、アルコール等で脱脂をきちんと行なって下さい。
- 重要** ■両面テープの圧着を充分に行なって下さい。49N(5kgf)

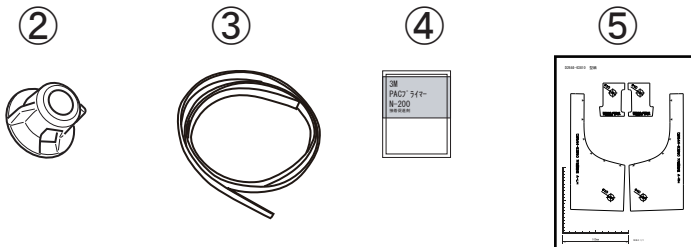
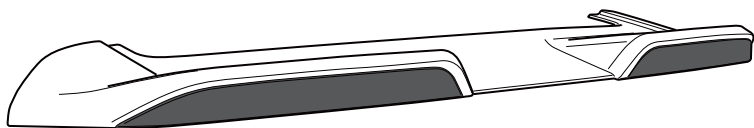
取り付け完了後の点検・注意事項

- ルーフスポイラーが、車両ルーフスポイラーに確実に共締めされているか点検して下さい。
- 両面テープの全ての離型紙が剥がされ、確実に圧着されているか点検して下さい。
- 取り付け完了後、ルーフスポイラー及び車両部品に傷がついていないか点検して下さい。
- 取り付け完了後、24時間程度は強い力をかけたり、雨等で濡れない様注意して下さい。
(両面テープの剥がれ、車両ルーフスポイラーとルーフスポイラーとの間に隙間が発生するおそれがあります。)

 アドバイス…この取付要領書では、スピーディーに安全な作業をして頂く上で知っておいて頂きたい事を左図マークで表示しております。

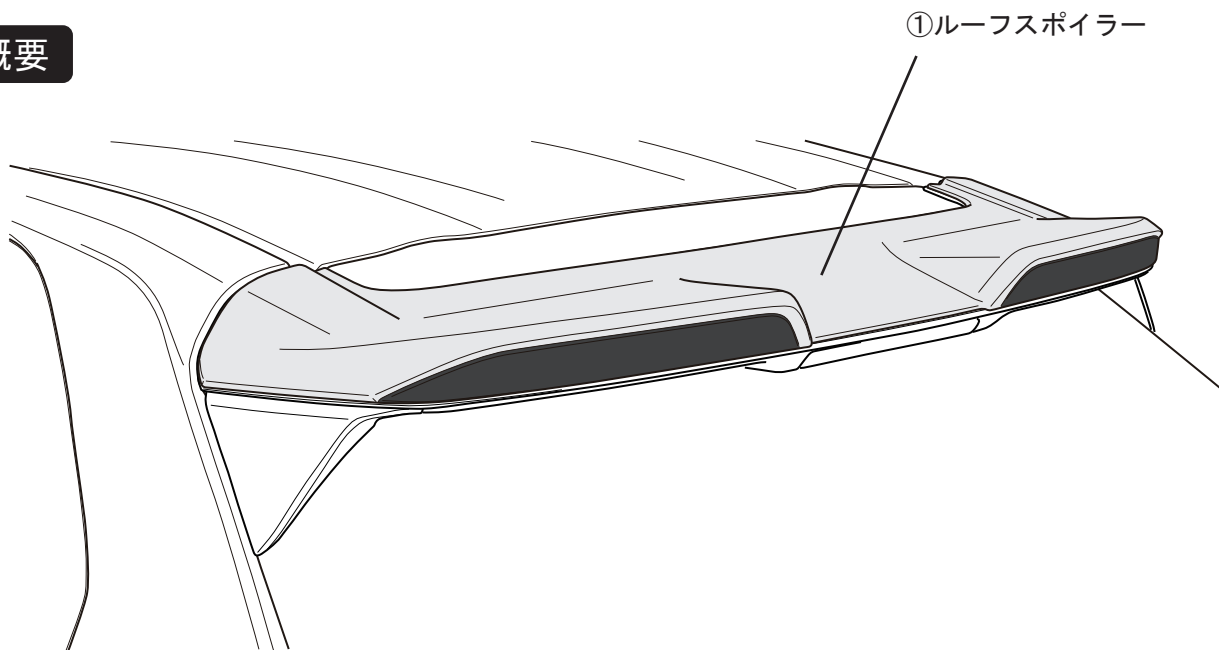
構成部品

①
>ABS<

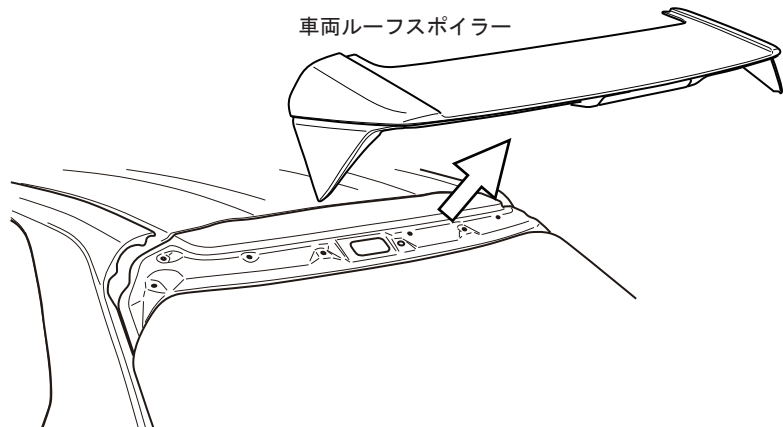


No.	品名	個数
①	ルーフスポイラー	1
②	クリップ	4
③	スポンジシート	1
④	PACプライマー N-200	1
⑤	穴あけ用型紙 (A/B)	1

取付概要



1. 取り付け準備



1. 車両ルーフスポイラーを取り外す。

👉 アドバイス

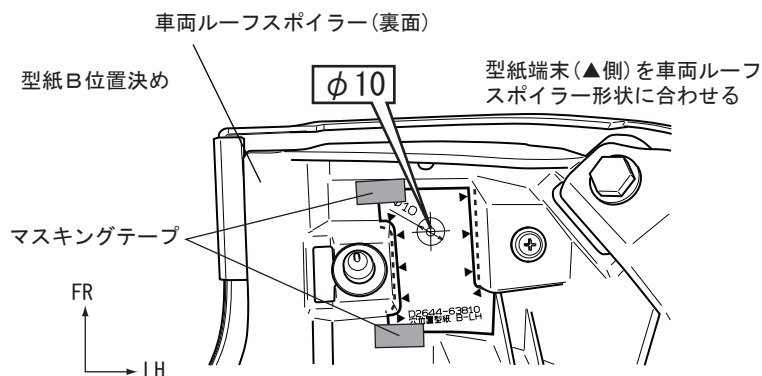
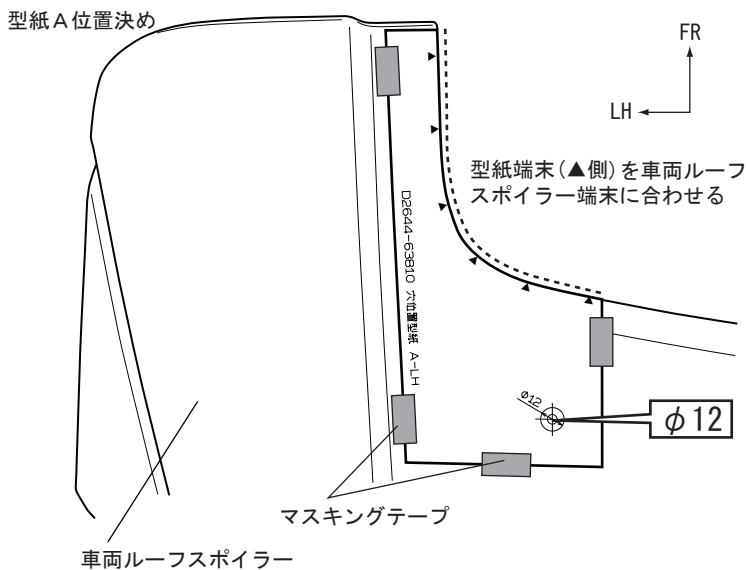
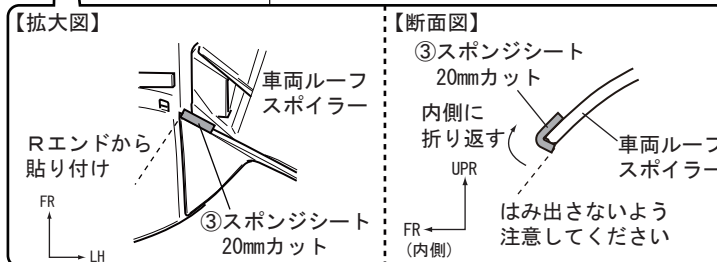
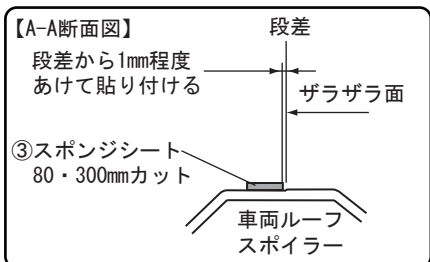
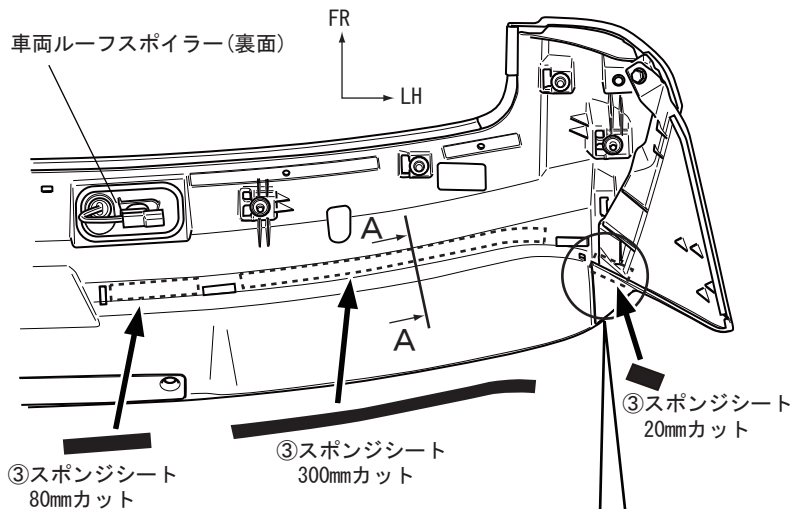
- 車両ルーフスポイラーを取り外す際は、トヨタ自動車整備マニュアルを参照して下さい。

👉 アドバイス

- 取り外した車両タッピングスクリュー、車両クリップ、車両ボルトは再使用しますので、紛失しない様ご注意ください。

取付手順

※図示はLH。RHも同様の作業を行なってください。



2. 左図の要領で車両ルーフスポイラー裏面の破線部枠内を清掃・脱脂し、③スポンジシートをそれぞれ80mm・300mm・20mmにカットし、貼り付ける。

3. 車両ルーフスポイラー表面に型紙Aを左図の要領で位置決めし、マスキングテープ等で貼り付ける。

4. 車両ルーフスポイラー裏面に型紙Bを左図の要領で位置決めし、マスキングテープ等で貼り付ける。

5. 各型紙の穴センター部に下穴をあける。

アドバイス

下穴をあける際は、穴の中心を狙い、ケガキ針ないしは、画鋸を用いて行なって下さい。

6. 車両ルーフスポイラーに指定の穴径で穴をあける。
(左図参照)

アドバイス

穴あけの際は、
A部 下穴: φ3mm → φ6mm → 本穴 φ12mm
B部 下穴: φ3mm → φ6mm → 本穴 φ10mm
で穴あけを行なって下さい。

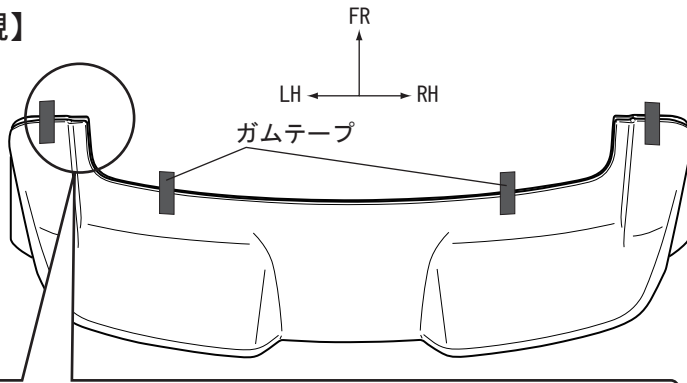
アドバイス

穴あけの際にバリが出た場合は、バリ取り処理を行なって下さい。

7. 型紙を全て剥がす。

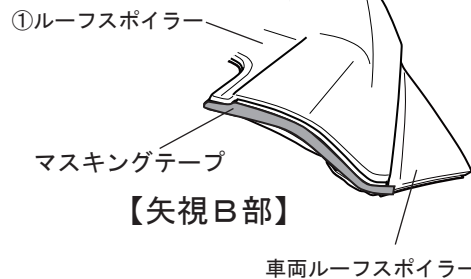
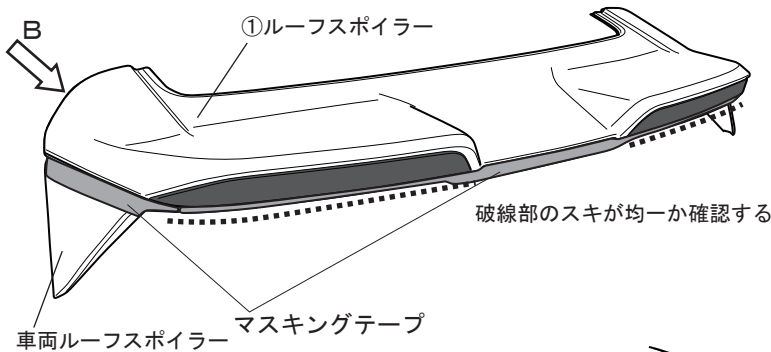
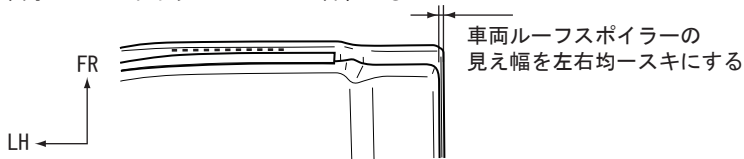
2. 仮付けとプライマーの塗布

【上面視】

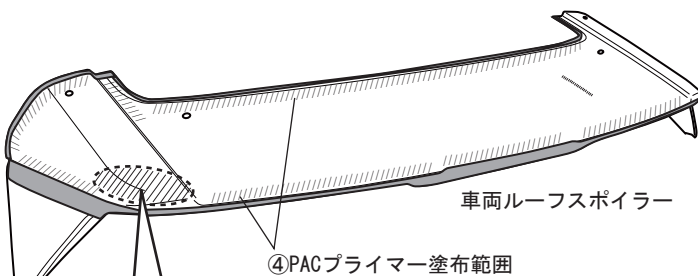


【拡大図】

破線部範囲のエンドモール先端を
車両ルーフスポイラーRエンドに合わせる



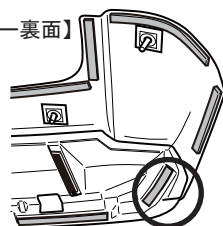
【矢視B部】



破線部の範囲は広く
④プライマーを塗布してください

【①ルーフスポイラー裏面】

右図○部のテープ位置は
端末位置より内側に両面
テープがあるのでプライ
マー塗布範囲に注意して
ください。



- ①ルーフスポイラーを車両ルーフスポイラーにかぶせ、取り付け位置を決め、ガムテープ等で仮固定する。
(左図参照)

👉 アドバイス

車両ルーフスポイラーにキズをつけるおそれがあるため、製品を被せる際は①ルーフスポイラー裏面のボルトに注意して取付けを行なってください。

- ①ルーフスポイラー外周にマスキングテープを貼り付ける。

- ①ルーフスポイラーを一旦取り外し、両面テープ貼り付け部(左図斜線部)を清掃・脱脂する。

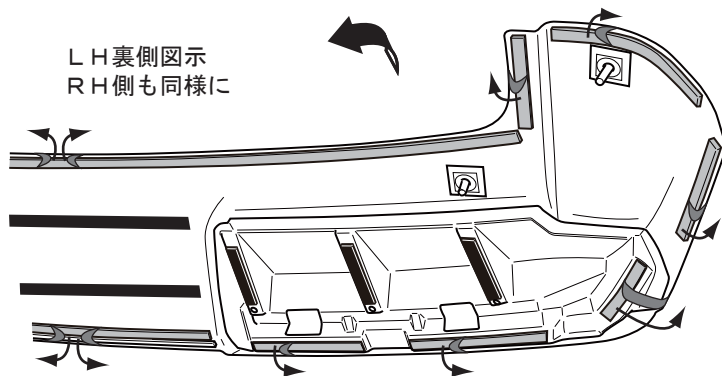
- 両面テープ貼り付け部(左図斜線部)に④PACプライマー-N200を塗布する。

👉 アドバイス

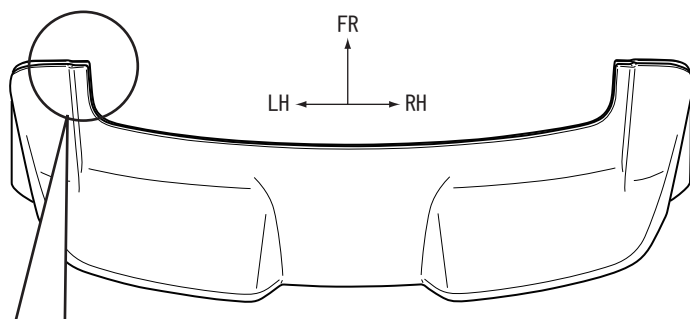
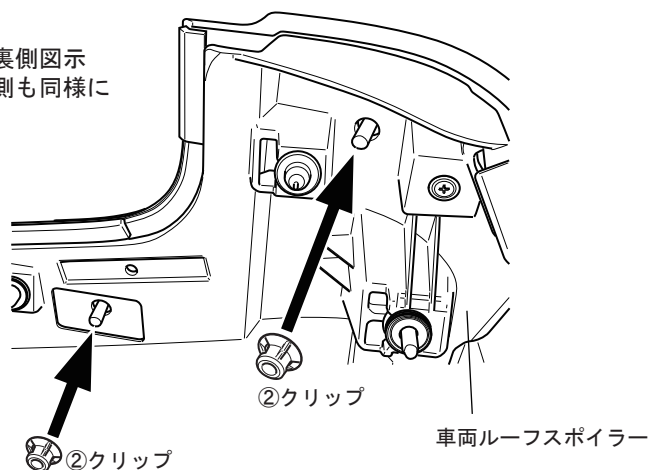
- PACプライマー-N200は特に白色塗装面を黄変させますので、マスキングするか、はみ出したプライマーは、アルコール等で拭き取って下さい。
- PACプライマー-N200塗布後は、常温で10分以上放置し乾燥させて下さい。
- ボディーコート処理されている車両は、マスキングをして両面テープ貼り付け部分を塗装用コンパウンドで除去して下さい。

- プライマー完全乾燥後、マスキングテープを全て剥がす。

3. 取り付け

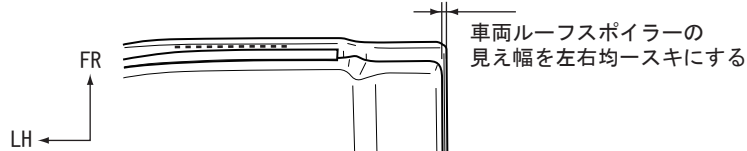


LH裏側図示
RH側も同様に



【拡大図】

破線部範囲のエンドモール先端を
車両ルーフスポイラーRエンドに合わせる



1. ①ルーフスポイラーの両面テープ離型紙を一部剥がし、表面に折り返してマスキングテープで貼り付ける。

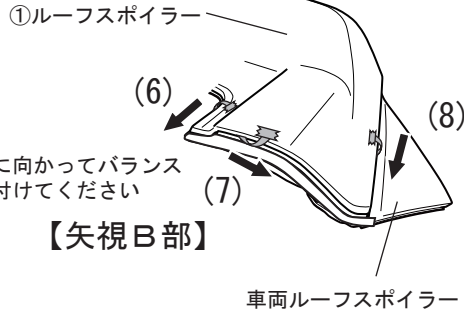
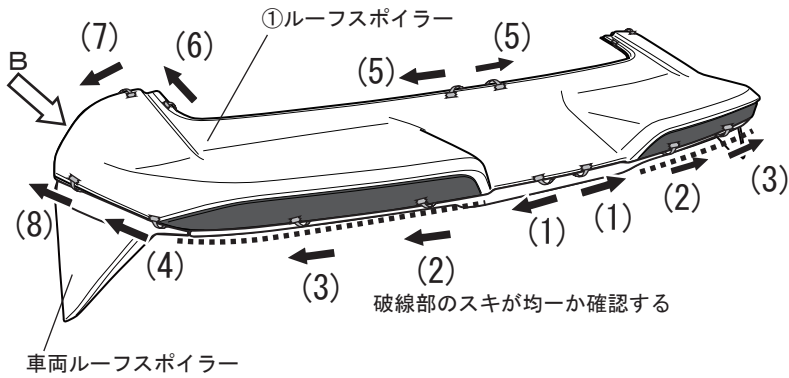
2. ①ルーフスポイラーを車両ルーフスポイラーに被せ、裏面から②クリップをボルト部に押し込み、仮締めする。
(左右計4ヶ所)

👉 アドバイス

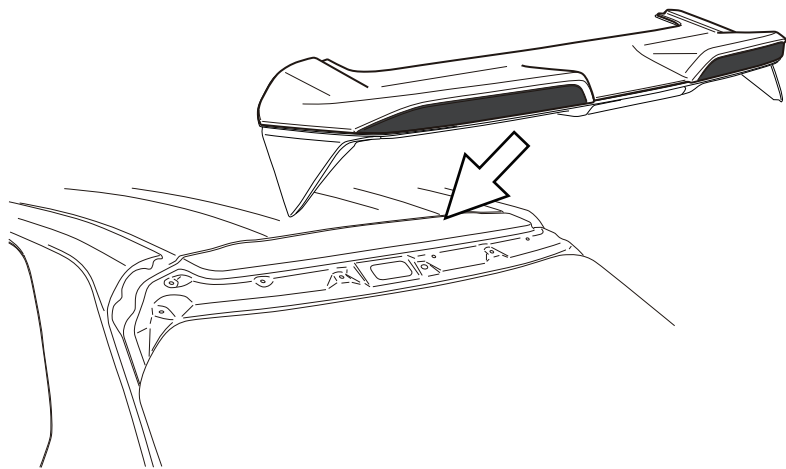
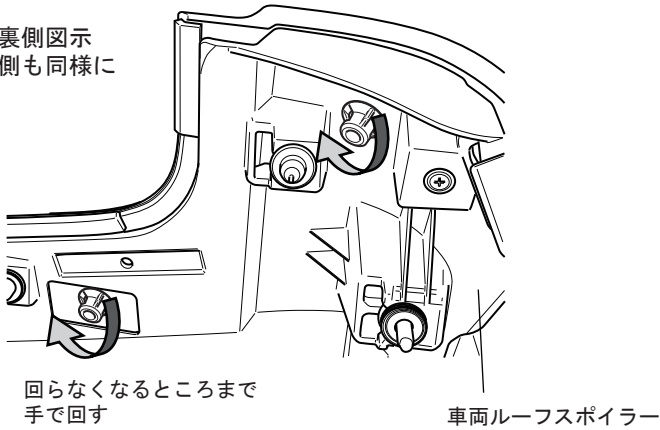
車両ルーフスポイラーにキズをつけるおそれがあるため、製品を被せる際は①ルーフスポイラー裏面のボルトに注意して取付けを行なってください。

3. ①ルーフスポイラーを左図の要領で車両ルーフスポイラーに位置決めする。

(No.) 離型紙を引き抜く順序



LH裏側図示
RH側も同様に



- 両面テープ離型紙を(1)～(8)の順に引き抜きながら外側に向けて圧着する。
※離型紙を引き抜く際に、①ルーフスポイラーの取り付け位置が変わらない様に注意して下さい。

アドバイス

両面テープの貼り直しをすると、接着力が極端に低下します。

アドバイス

- 離型紙が途中で切れない様に、①ルーフスポイラーを少し浮かしながら離型紙を引き抜いて下さい。
- 両面テープの圧着は、49N(5kgf)程度の力で行って下さい。

- ①ルーフスポイラーの浮き・剥がれがないかを確認し、再度両面テープ貼り付け面を圧着する。

- 両面テープ貼り付け後、3時間以上放置してから全ての仮締め部を本締めする。

- 車両ルーフスポイラーを車両に取り付ける。

アドバイス

車両ルーフスポイラーを復元する際は、トヨタ自動車整備マニュアルを参照して下さい。

ルーフスポイラー素地品の塗装手順

構成部品

① >ABS<



②



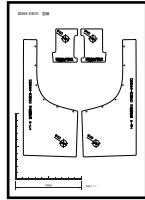
③



④



⑤



⑥



No.	品名	個数
①	ルーフスポイラー	1
②	クリップ	4
③	スポンジシート	1
④	PACプライマー N-200	1
⑤	穴あけ用型紙 (A/B)	1
⑥	エンドモール(ライトグレー/グレー/ブラック)	各1

⑥エンドモール推奨使用色

色番号	色名称	モール色
070	ホワイトパールクリスタルシャイン	ライトグレー
089	プラチナホワイトパールマイカ	ライトグレー
1L0	シルバーメタリック	グレー
1L6	マッシュブグレー	ブラック
209	ブラックマイカメタリック	ブラック
3T3	センシュアルレッドマイカ	ブラック
4V6	ベージュ	グレー
5C2	プラスゴールドメタリック	ブラック
8W2	グレイッシュブルー	グレー
8W7	ダークブルーマイカメタリック	ブラック

塗装作業

1. 塗装面の汚れ、ゴミ、ホコリをウエスで取り除き、必ず脱脂を行なう。
2. 製品に貼り付けてある両面テープ・スポンジ部をマスキングする。
3. プライマー塗装を行なう。
4. 上塗り塗装を行なう。

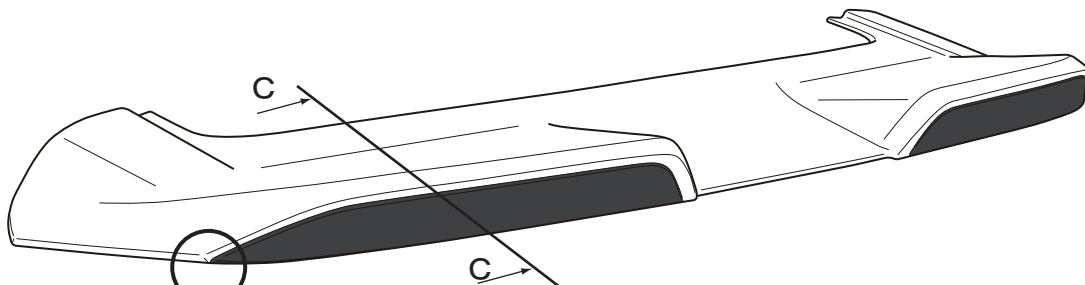
◎注記：上塗り用の塗料はウレタン系をご使用下さい。

5. 下図を参考にマスキングを行ない、範囲内を黒塗装を行なう。

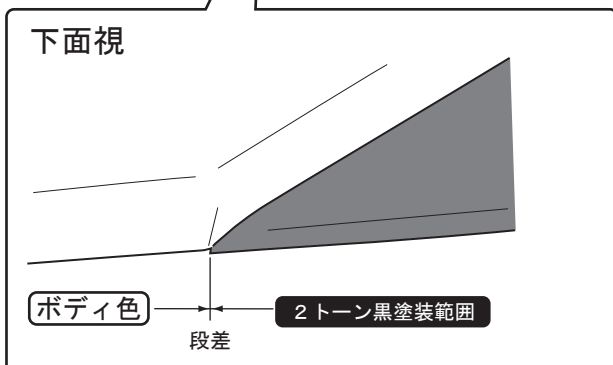
※ボディ色がブラックマイカメタリック (209)、の場合はつや消しブラックで、その他のボディ色はブラックマイカメタリック (209) で塗装して下さい。

6. 乾燥

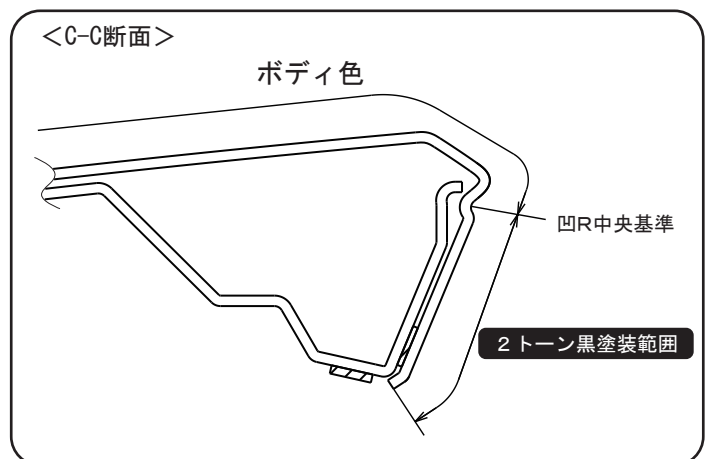
◎注記：乾燥温度は、成形樹脂の物性上、必ず60℃以下で乾燥させて下さい。



下面視



<C-C断面>

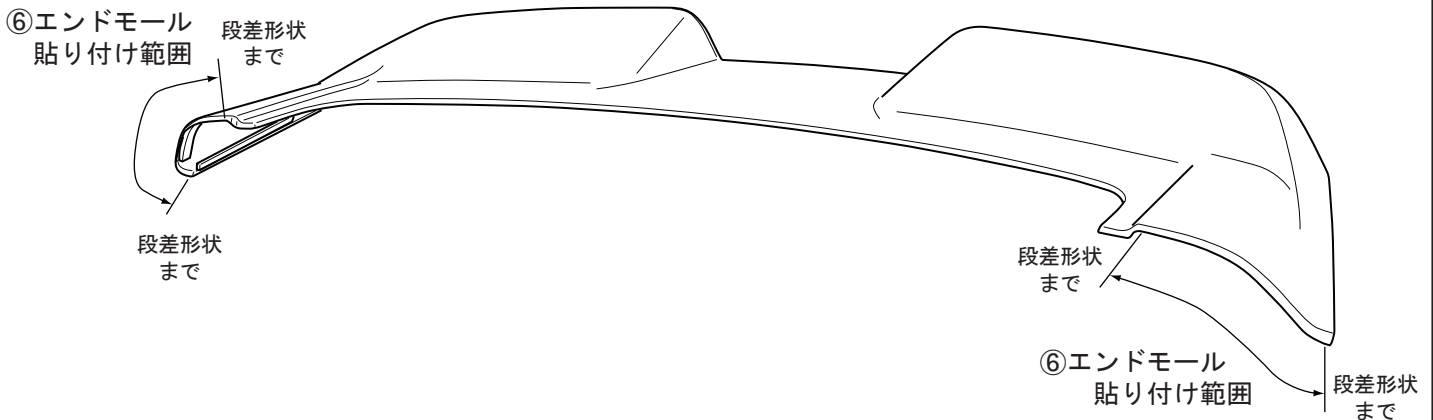
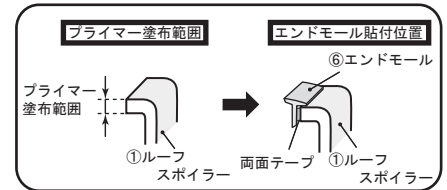


エンドモールの貼り付け

1. 塗装終了後、⑥エンドモールを貼り付ける部分を清掃・脱脂し、④PACプライマー-N-200を塗布する。

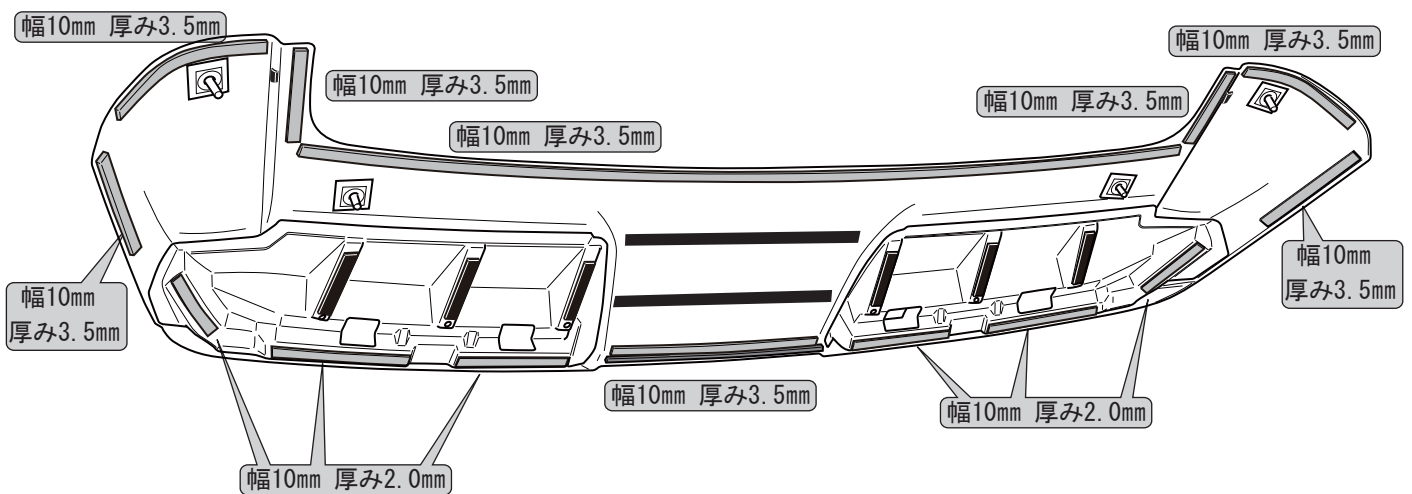
アドバイス

④PACプライマー-N-200は①フロントスポイラー取り付け時に再使用します。
揮発性が高いので、速やかに袋に戻し揮発を抑えて下さい。
特に白色塗装面を黄変させますので、マスキングするか、はみ出したプライマーは、アルコール等で拭き取って下さい。
④PACプライマー-N-200塗布後は、常温で10分間以上放置し乾燥させて下さい。



補修キット両面テープ貼り付け

1. 補修キットを使用してルーフスポイラーの再取り付けを行う際は、下図を参考に両面テープを選択しPACプライマー-N-200を塗布した後、貼り付けを行なってください。



脱脂作業要領書

本書ではエアロパーツ等を取付ける際の脱脂作業について記載してあります。
取付け前に必ずお読みいただき、正しい要領で脱脂作業を行ってください。

エアロパーツの取付け・脱脂作業の要領を
解説動画でご覧いただけます。
右のQRコードよりアクセスのうえ
ご確認ください。

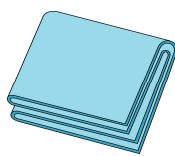


- ①エアロ取付準備・脱脂 (約3分)
 - ②エアロ位置決め・取付・圧着 (約6分)
 - ③デカール準備・水貼り・圧着 (約4分)
- 合計 約13分

■ 取付け時の脱脂作業に必要な工具等



水拭き用バケツ



合成セーム皮



脱脂剤用
スプレーボトル



ゴム手袋



DRY 用
ウエス



WET 用
ウエス



イソプロピルアルコール(IPA)
純度 70%程度を推奨
※純度 100%はモールの痛めるため
使用しないこと

■ 脱脂作業上の注意事項

1. ホコリ・チリ等のない換気の良い作業場で作業を行ってください
2. 隣接する場所で、ワックスがけやポリッシュ作業等を行わないで下さい。
※飛散した油脂やワックス等の成分が車両に付着してしまいます。
3. 脱脂剤を取り扱いの際は、眼・皮膚に触れないように保護具を着用のこと。
4. 脱脂剤を取り扱いの際は、作業場に火気・熱源のないことを確認すること。
5. 脱脂剤を取り扱いの際は、蒸気を吸い込まないように作業場内の換気に注意のこと。

⚠ 注 意・・・注意事項を守らないと事故につながったり、ケガをしたり、車両を損傷する等のおそれがあることを記載しています。

👉 アドバイス・・・スピーディーに確実に作業していただく上で、知っておいていただきたいことを記載しています。



使用禁止



ブレーキクリーナー
パーツクリーナー



ホームセンター等でキャンプ用
燃料用として販売されている
ホワイトガソリン〔白ガス〕

市販のブレーキ・パーツクリーナー及びキャンプ用品や燃料用のホワイトガソリンは
油脂分や不揮発性添加物が含まれているものがありますので使用しないで下さい。
コーティング剤の下地処理剤は、用途と異なるため脱脂作業には使用しないで下さい。
脱脂不足により、浮き・ハガレの原因となります。

★脱脂作業概要《重要》

◎【脱脂作業】とは、取付け面の表面に付着した油脂分を取り除き、両面テープの性能を十分に発揮させるための重要な下地処理です。

下地処理が不十分だと、両面テープの性能が著しく低下して、浮き・ハガレ脱落などの不具合を起こす場合があります。

大変に重要な作業となりますので確実に行ってください。

◎ 脱脂剤は、取付け面に付着した油脂分を浮かび上がらせて、ウエスへの吸着を促す溶剤です。

脱脂剤で取付け面を拭いただけでは、十分な脱脂は行えません。

《脱脂作業前に》以降の作業要領を十分に理解したうえで作業を行ってください。

■ 脱脂作業前に

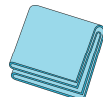
- 取付け面のホコリ・チリ等の汚れを十分な流水で洗い流す。
汚れのひどい場合は、洗浄剤を使用して汚れを落とし、洗浄剤を十分に洗い流すこと。
- 取付け面にコーティング等を施工されている場合は、除去剤・コンパウンド等を使用し除去してください。除去後、十分に水洗いを行ってください。
※コーティング剤が残っていると両面テープはハガれます。
- 水洗い後は、取付け面に付いた水滴を完全にふき取ってください。

■ 脱脂作業要領

- 取付け面の洗浄を行い、固く絞った合成セーム革等を使用し拭き上げて水滴をしっかりと取り除く。



水拭き用バケツ



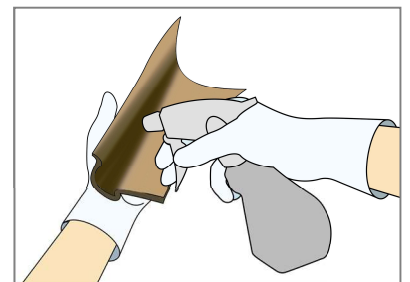
合成セーム皮

- スプレーボトルに入れた脱脂剤をWET用ウエスに吹きつける。



WET 用ウエス

※ ウエスは清潔なウエスを使用して、拭き上げ時にクズなどが出ない素材を選んでください。



WET 用ウエスにスプレーボトルを 5 cm ほど離して、初回は 10 回程度スプレーをして、ウエスが湿っている状態で取付け面を拭いてください。以降は WET ウエス表面が乾く前に追加で 5 回程度スプレーし、常に湿った状態を保つようにしてください。

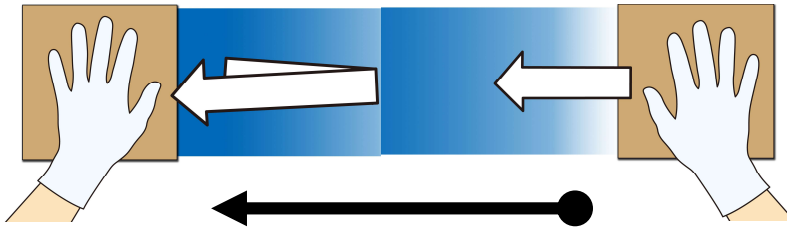
● 取付け面の脱脂作業を行う

①【WET 拭き】

脱脂剤を含ませたウエスで
1 往復で拭き油脂分を浮き上がらせる

②【DRY 拭き】

DRY 拭きウエスで一方向に
拭き上げ油脂分を取り除く



1 ブロック 60 cm 程度として両手に WET と DRY のウエスを交互に持ち
WET⇒DRY の順に拭き上げて脱脂する。

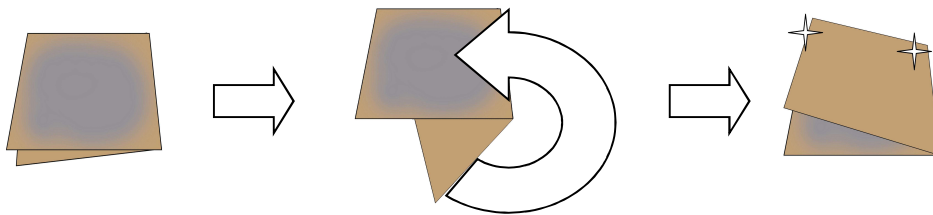
範囲が広い場合は 1 ブロック 毎を数回に分けて行い、仕上げに面を通して拭き上げる



WET 拭きのあと脱脂剤が乾かないうちに DRY 拭きで一気に拭き上げを
行ってください。

(上図のように両手にウエスを持ち作業を行うと素早く作業できます。)

DRY 拭き作業後に拭き上げた面に、拭き跡が残っている場合は油脂分が
残っていますので、再度 WET・DRY 拭きを行ってください。



WET/DRY のウエス共に 3～5 ブロック 毎にウエス表面を折り返し
ウエスの拭き取り面が常に清潔な状態で作業を行ってください。



汚れたままのウエスを使い続けると、ウエスに拭き取った油脂分が取付け面に
再び付着して、エアロパーツの浮き・ハガレの原因となります。

脱脂作業がしっかり行われている取付け面は、DRY 拭きを行った際に
ウエスへの抵抗が増して、拭き上げが重くなります。
作業前と作業後のウエスの抵抗感を目安に、脱脂を行ってください。

脱脂後の取付け面には、指などを触れないように作業を行ってください。

脱脂後は長時間放置せず、すぐに作業を行ってください。

チリ・ホコリ等が付着しないように、十分注意してください。
パーツの取り付け方法は、各パーツの取扱説明書ならびに取付要領書に
したがって行ってください。